資料　４－３－１

CISPR_B_WG1 英国チェルトナム会議報告

CISPR/B/WG1 会議（2013 年 1 月 17 日、18 日の 2 日間）

・出席者：エキスパートメンバー（18 名）　コンビーナ（英国）、幹事（ドイツ）
日本：７名、ドイツ：４名、フランス：２名、オーストリア：１名、
韓国：１名、オランダ：１名
オブザーバ（1 名）　日本：１名

１．CISPR11 Ed.6.0 原案（CD）に対する審議結果

CISPR11 第 6 版原案 CISPR/B/535/CD は、バンコク会議で保留となった事項があるため、チェルトナム会議で解決のための審議を行った。

a) CISPR11 に FAR による放射測定を導入する提案がドイツから出されたが、今回は採用されなかった。ドイツ国内委員会から改めて DC 文書を出す計画がある。

b) 誘導充電器を CISPR11 の適用範囲とすることについて、誘電充電器の CISPR における取扱いの状況について CISPR/B 議長が INF 文書を作成することになった。家電機器用の誘導充電器は CISPR14-1、携帯電話用の誘導充電器は CISPR32 が適用されるので、CISPR11 の適用から除外される。

c) 測定距離 3m における磁界強度の許容値の提案がバンコク会議で出されたが保留となっていた。日本とオランダからシミュレーションによる 10m/3m の換算値を紹介した結果、ドイツの提案の裏付けとして歓迎され、ドイツの提案を採用することになった。
　別紙 13-08 参照

d) バンコク会議で、日本からマイクロ波治療器の測定の問題点を測定データで示して負荷条件の変更を提案したが、測定法に関するコメントのため保留となっていた。今回再測定のデータと共に、改めて負荷条件の修正提案を出したところ、それが採用された。

e) CISPR11 における 1GHz 超の測定におけるスペアナの VBW は「1MHz 以上」となっていたのを「3MHz を推奨する」と修正する提案に対し、日本のエキスパートが 1MHz と 3MHz の差異を測定したデータを紹介した結果、提案の裏付けとして歓迎され、提案通り修正を採用することになった。

f) 「小さい機器」の放射測定におけるケーブルの配置の明確化のために配置の例の図を挿入することになった。考え方としては、CISPR14-1 と合わせ、テーブルから床に垂らしたケーブルの余長部分に CMAD を入れるというものである。

２．その他の審議

a) 電子レンジの 1GHz 超の測定において、ピーク測定を省略する提案については、CISPR 11 の全面改定の 2ndCD とは別の CD を発行し、コメントの状況を見た上で CDV 段階で一本化することになった。

b) 太陽光発電パワーコンバータ以外の GCPC の取り扱い

MT-GCPC で合意した測定方法を他の GCPC に拡大適用すべきかどうかについて議論が行われたが、拡大により影響を受ける TC22 にも検討を依頼することとし、MT-GCPC では太陽光発電 GCPC に限定して規格化を進めることになった。

c) オランダのエキスパートから中サイズ機器（高さ 1.8m, 直径 3m の仮想円柱に収まるもの）に対しては、30MHz~300MHz の放射妨害波の許容値を、離隔距離 5m において 10m における許容値よりも 4dB 又は 5dB 高くする提案が行われ、DC 文書を発行して各国国内委員会の意見を求めることになった。

d) 30MHz 以下の無線通信業務に対する誘導システムからの保護距離の計算に関する ITU 文書に対して、この計算はワーストケースの条件のみに基づいているので、誤解を生じるおそれがあるというコメントを CISPR/B として ITU に送ることになった。

e) CISPR11 のメンテナンスの手順

別紙 13-16 参照。

３．次回の会議開催

次回の B/WG1 会議は 10 月 4 日の午後と 5 日の 1.5 日間、カナダのオタワで開催される。

以上